

2E-91

特15
733

254
256

修身の道如何

020727-000-0

特15-733

修身の道如何

ヘンリー・ドラモンド/述

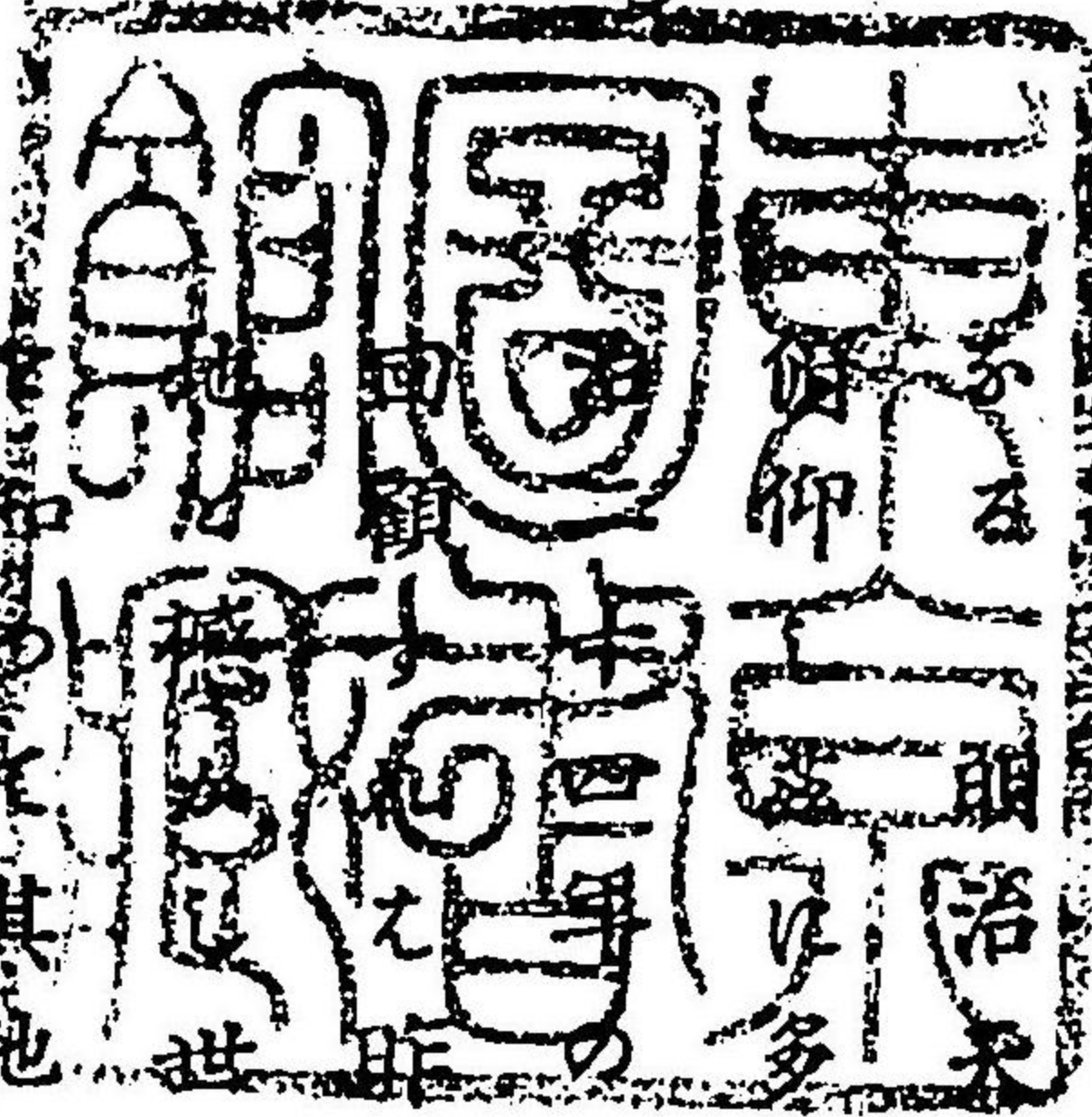
M23

ABI-0547



祝福ある新年は玉樓芳屋の別なく平等に万戸の裡に

入る来れり吾人は友愛ある兄弟姉妹と共に我



皇陛下の國土に食み宗教自由の天
望なる立憲代議政体の實施せらるゝ明
第一曉と迎へたると感謝す

年の如き政海波荒く鯨浪天と蹴り雷轟
人は滔々政治の一方に流れ只政治ある
を知らず其他と知らず實に狂奔輕走せり吾人不敏と

雖も自ら見る所あり世好に投せを輿論に媚ひす紛々
擾々の世表に屹立し聊か世道人心の爲めに盡したる

ものありき

●二

吾人は本年に於けるも尚ほ既往の如く盤根錯節に利
刀と試みんと欲す是れ社會の狀勢吾人と驅つて此の
天職に至らしめ實に止むべからざるの理由ありて存
す吾人熟ら我國民今日の位置と考ふるに決して一時
と胡麻化して過ぐへきの秋にあらま邦家將來の大計
と規定せざる可からざるの時機なり故に一步と過た
んか他日千里の差と生まる一髮千鈞の危機なりとま
而して商工に政治に教育に凡そ名と利の附着する所
には人蟻の如く集り以て甘味と吸はんとを然れども

人間の品性と涵養し自己の良心と修練する宗教の一
事に至りては世人以て閑問題とせり蓋し是れ宗教
の良否は國家の興廢に關し學問の盛衰に關し且つ一
個人の休戚に關する所以と知らざるによるのみ
吾人は我國家の爲め我同胞の爲め宗教の終に止むへ
からさると知るかゆへに平素の微意と致さんと欲し
元旦まつ筆と添めてフラモンド氏の一著述と譯す氏
は嘗て物心原理共通論と著えし名と世界に博したる
蘇國グラスゴアの進化論者なりスペンソル氏ニケル
ペン氏の動物進化の原理と取つて社會の事物に適用

●三

ヒドラモンド氏を更に進んで其原理を心靈界に布行
 したる先登者なり故に氏の基督教と見る眼孔を學術
 的にして大に吾人の敬服する所のものあり
 今や新年を来れり古き衣を脱ぎ新しき衣裳を着すへ
 き時あり歳を人と待たず人を却て歳に後れんとを諸
 君冥を奮つてまつ心靈上の新年を迎へざる時曰く
 「從今克己應猶及願與梅花俱自新」と願くを来れ諸君
 保守反動の最極端と去つて銳意進取の中心点に移り
 以て社會と共に諸君と共に心自ら新あるおとを得ん

明治二十四年元旦

譯者 識

修身の道如何

山 中 百譯述

方今世上の必須は夫の冷淡なる千の道德家と出きんより寧ろ熱
 心有爲なる十のクリスチアンと有るよりあり語を換へて之と云
 へは感化力なきもの、夥多からんより感化力あるもの、小數な
 るより如かず身と殺して仁となすキリスト、イエスの精神をくん
 ち如何んを社會と改良し風俗と矯正する責めに堪ゆへけんや吾
 人は先づ普通の修身法の誤謬と述へん
 其第一は毫も據るべき道德の標準なく自家の考案より方圓長
 短隨意に切盛りせんとする人あり是れ中々六ヶ敷事よて恰も水

中は溺れて己の手と以て其頭髮と捉け自ら救はんことを異を
 らす故にキリストも「爾曹のうち誰れか思ひ煩ひて其生命と寸
 陰も延得んや」の語と吐きて諷刺的に其非あると述へ給へり第
 二は一惡つゝに心と凝らし漸次勝ち得て全善に至るよりあり是れ
 亦た甚た迂濶のところに人命の短縮ある世事の夥多なる連も普通
 の修身法とするに足らず且又宗教を消極的に惡と制するのみに
 て成立せず善とをまこと教へさると得ず果して然らば夜と日に
 繼きても足らざるや知るへし第三は修身日記と製し一事一件之
 れに書き留め背徳あらむ自ら戒め嚴則と設け以て心と潔めんと
 するにあつて彼のフランクリンが嘗て試みし所あり是れ亦實際繁

忙の社會にありて殆んど出来へからざるの事た

以上の諸法を多く器械的人爲的として全く寸功おきにあらざる
 ん未た以て吾人の希ふ真正の目的と達するに足らざるものあり
 果して然らば修身の真正なる方法は何ぞや其方法を他の諸法の
 如く複雑にして微弱ならま尤も單純にして成果あり而して何人
 にも自己修身の規範とをまへく且つ原因結果の理法と相背か
 ざるものありツハ哥林多後書三の十八に曰く「凡て我儕帕子を
 くして鏡に照らまか如く主の榮と見榮に榮いや増りて其おなし
 像に化するかりこれ主即ち靈に由りてある」とある是あり
 吾人手細工にて心と潔めんとするは失策を原因なくして結果

と求むるは出来へからさるとなり然れと縁由あり又原因あり
 て漸次徳行に進歩するは頗る同じ像に化り易きものあると見る
 縁由と何ぞ即ち吾人キリストの榮と心鏡に照す是をサテ其
 榮と光輝あるの意にて素より比喩あり凡そ人に於てはキリス
 トに於ては内部の美妙光輝あるもの蓋し品性に外ならず實に
 キリストの光榮を其非凡なる品性にあてて存す依て吾人の品性
 の語と榮の字に代へて右の一節と解すを得るを即ち「凡て
 我儕帽子なくして鏡に照すか如く主の品性を見て品性に品性の
 や増りて其おなし像に化るを」斯くの如く漸次品性を高尚に
 進化するものあり元と人は一種の反射器あり是に於てか汝の面

や汝の言語は端なく汝の國粹と反射し来る談數刻に涉れを忽ち
 南方の人か北方の人か但しは又加奈太人か英國人かと判しうる
 にあらまや又彼はスペンソルの徒かハックスリーの流か又ダルト
 ンの派かとも一々其明鏡より反射するのみならず終に進んで彼
 の境遇も全生涯とを反射明瞭ならしめるよあらずやナンニツン
 氏曰く我を我か交える全体の一部ありと是れ人を境遇に同化せ
 らるゝと云ふなり吾人は記を八年間同窓ありて刻苦勉勵せし
 二人の學生ありしか其思考力其行爲萬事に附けて恰も同一人の
 如く相化したたりしと又男女夫婦とありて五十年の星霜と邂逅せ
 て同一人間の如くあると云ふは同じ理あり是れ知らず勉めず志

て互に相反射するの好例にあらまや

吾人實際的の教訓を「キリストと常に變らぬ友とをま」の一句あり若し毎朝五分間キリストと共にありて心靈的の交とをさす一日の所行私の爲めにあさすキリストの爲めに在すの思想起らん蓋し一歩既にキリストに近くなり故にキリストと友としキリストと反射するをクリスチアンの高潔なる生涯の秘密なりと謂つへし

諸君或は云はん人如何にして無形のキリストと友としうへまやと然れども交誼を元と精神上のとのみ少しく考へ見よ友必ず汝と共にあらさるも汝と感化する敢て難からざるにあらまや假令

キリスト再生するを小數の外會するの機をかるへし吾人を一
小英國に於てすり女皇陛下と拜謁する稀あり又全く之に見へま
る數萬の臣民をらあれあり故にキリストは地にあるより却て天
に在すの勝れるよ如かす聖語に曰く「我か去るは汝等の爲あり」と
と「我か爲なりと云えす」去りしとによる地にありし時よる吾人
に接近せしと得しあり
吾人キリストとの交誼を他の交際と同しく心靈的ありとす凡そ
友と愛するを其目に見ゆる物体にあらすして心意如何にあり殊
に美なる榮ある品性よあるとす聞く某國に品行方正ある一女兒
ありしか首に一小管と着けたり而して誰れん之と聞きしものか

かりき然るに一朝病んで床に卧す傍にあるもの之と開けは其中に刺して「見ざるものと我を愛す」の數語ありし是れ此の女兒か同志像に化りし美妙光輝ありしクリスチアン生活の秘密ありしといふ

吾人は今キリストに交へるによて生ずる結果の一、二と述へん「彼にあるもの之罪と犯さす」「罪と犯すもの之彼と知れ彼と見ざるあり」との聖語の如くキリストの面前に立つもの如何んを罪と犯すの念起らんや實に罪と犯すと能えざるに至る又キリストの正直と謙遜なると見て我儕を赤兒の如く従順に處て無邪氣となり亦た自ら頑陋あらんと欲するも得を而して忍耐力も起り

慈善心に自然にして生ずるは是れキリストの品性の汝に反射する第一着歩ありとす尚ほ進んで信仰とは何物なるや又た如何にして信仰と得へきや等種々諸名家の説教とを聞きたれと吾人の見る所によれを信仰とてキリストのキリストたるを知り之と友とまると外ならを故に矢張人間界に行はるゝ交誼の如く彼れの精神如何と熟知し彼と他人視せを我身と擧つて彼れに委ぬるに更に其間に狐疑せざるに至らぬ是れ健全なる信仰あり如此あれは彼は我たり我は彼たり既ち吾人其彼の像に進化したるあり由は是觀之則ちキリストと熟知するより信仰の中より生ずる所謂此原因ありて此結果あるものあり世人動んずれをキリストと知

らまして之と信せんとす是れ真の信仰にあらすして誤信あり其
 信仰と得るに吾人充分の祈と務めさると得ず神に祈るを信仰
 に至るの緣由と増すの一事を之と知るへし吾人愈勵んでキリス
 トと知れを愈々進んでキリストと信するに至るや必せり
 斯くキリストと親密の交とあしたる他の結果を吾人の心意に自
 然に生ずる平安と喜悅なりとを而して此二者を吾人の心意と慰
 むるものよして變轉極りあき逆境に處して容易に失意せしめさ
 る功蓋し少小あらす
 キリストを約翰傳十五章葡萄の譬と以て「此事と爾曹に語るを
 我か喜なんちらに在りて爾曹の喜と盈たしめんか爲あ」と述

へ給へり以上縷陳したる如く信仰も平和も喜悅も亦た其他數多
 の善事も皆な是れキリストと友あるの一事より生し来ると知る
 へし概して之と云へは人間の價値之れによりて層一層の光輝
 と生すへし獨り世と感化をるゑのはキリストあり然れとも世を
 直線にキリストと見す先つ汝等の行爲と見る故にキリストを「
 世を既し我と見す只汝等のみ我と見る」といへり吾人を宜しく
 キリストと見キリストの前に立ちてキリストと反射し世として
 其反射と凝視せしめさるへからず是れクリスチアンの最大義務
 ありとま

吾人を斯くの如くキリストと友なるの好結果と陳述したりと雖

に其他種々雑多の結果に至るては尚ほ指と屈するに暇あらざるへし然れども最絶頂の要点を只主即ち靈よよて同じ像に化るの一事にありとす不識不知の間キリストの精神に同化する是あり

吾人は終に臨んで一言せん以上の所論を敢て行われかたき學理と講したるにあらす心と潔め身と修むるに於て必ず成果ある方と述へたると思惟す「凡て我儕を帕子かくして主の榮即品性と鏡に照すか如く過たす同じ像に化る也」コハ動かすへからざる一原理ありとすエモルソン曰く俊傑を専心不動ありと吾人えし道心と高潔からえめんと欲せし則ち亦た専心不動あると要す

現今宗教社會に行たる、種々雑多の誤説に惑えざる、となく堅く聖經に記する此一節と守らえ必ま諸君各得る所あらん蓋し此法を原因結果の理に戻らざるゆへ汝等幸にキリストの供へ給ひし緣由と克きを自然の大法より結果は隨て生せんのみ吾人地上の友と刻剗の交と結ふよ是是非幾多の日子と費やし互に相知ると要まゝルスフイルドの集會に於て學友と相親みムーデー氏と相交るゝ常に多少の時間と費やさゞると得す然らむキリストと心靈上よ於て生涯無二の交となすに於ても必ま若干の日月と経過せきると得ま一躍天よ上るを出來うへきの事よあらす故に吾人の業は日よ且つ學ひ且つ進んでキリストの品性と自ら收獲し之と世よ向つて反射せば其光輝や必ま四方よ燦然た

る元のあらん

昔し巴理府パリに一の老彫刻師ろうてうこくしありけり家貧いんにして茅屋ぼうおくに住し偶々たま泥土つちと以て秀美しうびなる一像ざうと作れり時に霜夜そうや寒氣かんき肌はだに迫り土像たむ爲めに損そんせんと老工らうこう憂愁ゆうしう措く能つえず終ついに自ら衣服いふくと脱だつし土像たむに被からしめ以て其瓦解がいかいと防かきたり然れと元一友朝あしたに訪とひ来れと憐あわれむへし其老工らうこうは既に凍死こいへしたるしとそ顧かへふに天てんに在るの彫刻師てうこくしを泥土つちの如き平凡へいほんなる吾人の心中みに美み妙光輝みせうかうある神像しんざうと作らんとする元のありキリストは之れか爲め生れ之れか爲めに死を果して然らば則ち吾人か有するキリストの像即ち光輝あるの品性を當あたに彼の巴理美術館パリビョウビョウ中の土像どざうの如きのみならんや

今治基督教會略歴史

秋 吉 辰 次 郎 編

吾人ハ今我今治基督教會既往十一ケ年間ニ於ケル教會ノ榮枯盛衰ニ係ル較著ナル事蹟ヲ序次略述シ以テ諸君ノ高覽ニ供セントス

今ヲ去ル十五年前即チ明治九年ノ初夏米人アフキンソン氏来リ當市街ニ於テ始メテ基督教ノ説教ヲナセリ是レ之レカ基督教ノ我今治ニ傳ハリシ嚆矢ナリ爾后求道者陸續輩出シ遂ニ聖書研究ノ目的ヲ以テ一社ヲ結フ稱ケテ愛隣社ト云フ當時社員凡四十余名ナリ明治十二年夏横井時雄氏永住傳道師トシテ来任シ同年九

月按手禮式ヲ執行シ今迄基督教會ヲ設立シ同氏自ラ教會ノ職ニ當レリ最初會員ノ數ハ僅々七名ナリシト雖モ大ニ福音傳播ニ熱心シ加之常ニ數名ノ傳道師アリテ本市街ヲ初トシ或ハ大井村ニ本庄村ニ小松ニ西條ニ波止濱ニ又進テ東ハ讚州ノ坂出ニ西ハ宇和在ノ吉田ニ至ル迄東奔西走シテ大ニ力ヲ盡シタルモノアリキ如此シテ十有餘年間ノ星霜ヲ經過シ来リ本教會ニ加入スルモノ大約六百有餘名而シテ分派シテ已ニ教會ヲ成セルモノ三ツ曰ク松山曰ク小松曰ク波止濱是レナリ

降テ明治十九年三月ニ至リ教師横井時雄氏京都同志社英學校ノ教授ニ招聘セラレ止テ得テ職ヲ解テ當教會ヲ去ル功成リ身退ク

ハ蓋シ同氏ノ謂歟爾后四年間數百ノ群羊ハ無牧ノ慘狀トナル然レモ幸ニ皇天ノ攝理ニヨリ失敗ノ悲境ニ陷ラヌ世波怒濤ヲ凌キ遂ニ明治廿二年ニ至リ欣喜雀躍ノ中ニ山中百氏ヲ迎ヘテ以テ後任者トナシ教會ノ職ヲ委屬セリ爾來漸次改良進歩ノ途ニツキ會員稍蘇生ノ思ヒヲナセリ同年十月本教會十年期ニ相當スルヲ以テ内外ノ教師教師等ヲ迎ヘ一大祝典ヲ開キタリ序テ昨年秋以來非常ナル神恩ニ沐浴シテ更ニ教會ノ面目ヲ一新シ會員各應分ノ働キヲ内外ニ務メ居レリ去ヌル廿三年度ノ如キハ増加スル者凡ツ五十名而シテ現在員總數凡ツ四百名ナリト云フ

今治基督教會職員

牧師 山中 百

執事 中谷 卯三郎

全 太田 茂 總

全 柳 瀨 壽 一

全 增田 尚 平

全 正木 山 一

全 柳 瀨 七 廿 一

安息日學校幹事

木 安 百太郎

久 水 辰二郎

傳道委員

柳 瀨 春次郎

傳道補助員

秋 吉 辰二郎

明治廿三年十二月廿六日印刷
明治二十四年一月六日出版

翻譯者
發行所

山

中

百

愛媛縣越智郡今治町
通丁二十六番地

印刷者

真

鍋

爲之助

愛媛縣越智郡今治町
本町一番地